

## 国際交流の在り方を模索

米沢 イベント参加者 パネル討論

江戸時代に慶長遣欧使節団を率いた支倉常長の出生地・米沢市関地区などを走ったランイベントの参加者を招いたパネルディスカッショングが8日、同市の伝国の杜で開かれた。参加者はイベントを振り返り、国際交流の在り方を考えた。

イベントに参加したい共通性を確かめていくこと

行政書士高橋輝さん(62)、市職員林啓太さん(35)、米沢東高3年情野逸平さん(17)の3人がパネリストを務めた。

「英語が話せなくても、身ぶり手ぶりでコミュニケーションする面白さがある」た、「互いの違いを認めつつ、人間としての普遍的な

が大切」とそれぞれの収穫を披露した。

イベントは4月4日に開かれた。日本とスペインの交流に取り組む支倉常長日西文化協会(同市、九里広志理事長)が企画。使節団

がスペイン・マドリードで国王に謁見して410年となるのを記念した。使節団員の子孫に当たる人などスペイン人2人も来日し、一緒に走った。

(斎藤健太)



ランイベントを振り返る  
(右から) 高橋輝さん、  
林啓太さん、情野逸平さ  
ん || 米沢市・伝国の杜